

# だれもが 文化でつながる サマーセッション2023

## 1 トークセッション

★要事前申込

【期間】 7月29日（土曜日）～31日（月曜日）

【会場】 東京都美術館 講堂

アクセシビリティに係る様々な分野の専門家やアーティストを招き、文化施設での取組や最先端のテクノロジーの活用などについて議論します。

令和4年度の国際会議から継承した知見も交え、今後の新たな取組を展望します。

### ○オープニング・主催者挨拶

#### ①「文化的『社会的処方』と共創の場」 7月29日（土曜日）13:15-15:00

昨年度の国際会議で議論された共生社会における芸術文化活動を活用した取組について、イギリスの取組や、日本における国や大学でのグローバルな取組を交えて議論します。

モデレーター



稲庭 彩和子

国立アートリサーチセンター  
主任研究員



中野 敦之

神奈川県民ホール  
館長付 事業課



伊藤 達矢

東京藝術大学 特任教授



森 司

アーツカウンシル東京  
事業調整課長

#### ②「ろう者による表現」 7月29日（土曜日）15:30-17:00

2025年のデフリンピックを視野に、ろう当事者である三者が、ろう者の言語や文化・表現について語り、ろう者・聴者との関係性のあり方を再考察します。

モデレーター



根本 和徳

めとてラボ  
特別支援学校 教員  
福島県聴覚障害者協会 理事



西 雄也

デフアート研究者  
都内の教育現場にて美術教  
育に携わる



菅野 奈津美

Re; Signing Project代表  
アーティスト/教員

### ③「ふれることから出会う世界」 7月30日(日曜日) 11:15-12:45

視覚障害のある方の、芸術文化の楽しみ方の幅を広げる取組と可能性について議論します。  
イタリアの美術館での取組やインクルーシブ教育の事例を通して、知覚の多様性や、視覚障害のある方の世界観やコミュニケーションについて語り合います。



岡野 晃子

映画『手でふれてみる世界』監督  
ヴァンサン彫刻庭園美術館 副館長



半田 こづえ

明治学院大学 非常勤講師  
主な研究テーマは触れる芸術鑑賞、  
ミュージアム・アクセシビリティ



茂木 一司

跡見学園女子大学 教授  
専門は美術科教育、インクルーシブアート教育

モデレーター

### ④「来館しやすい美術館」 7月30日(日曜日) 13:30-15:00

アクセシビリティや障害のある方への理解を促進する取組の事例を紹介します。先駆的かつ継続的に取り組んできた美術館等の事例を通して、今後の課題と展望を語り合います。

徳島県立近代美術館

水戸芸術館現代美術ギャラリー

モデレーター



竹内 利夫

徳島県立近代美術館  
学芸員



亀井 幸子

徳島県立近代美術館  
主席



森山 純子

水戸芸術館現代美術センター  
教育プログラムコーディネーター

撮影：仲田 絵美



大内 郁

東京都渋谷公園通りギャラリー  
文化共生課長

### ⑤「劇場・ホールにおける共創的体験」 7月30日(日曜日) 15:30-17:00

世代や背景を問わず、表現を通して交流できる劇場・コンサートホールの機能や可能性を語り合います。誰もが楽しめる舞台芸術や音楽、また鑑賞体験のあり方を議論します。



近藤 良平

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督

撮影：言美歩



梶 奈生子

東京文化会館 事業企画課長



中村 美亜

九州大学大学院  
芸術工学研究院 准教授

モデレーター

### ⑥「デフリンピックに向けて」 7月31日(月曜日) 10:00-11:30

2025年のデフリンピックを視野に、ろう者とともに芸術文化を楽しむための文化施設の機能や情報保障のあり方、「表現」の今後の展望について議論します。



大杉 豊

筑波技術大学 教授  
国際ろう者スポーツ委員会副会長



清水 言一

喜多能楽堂 館長  
手話公演をはじめ能楽の  
普及事業の企画制作にあたる



江副 悟史

俳優  
日本ろう者劇団に入団後、  
手話狂言などに出演

モデレーター

## ⑦ 「情報保障とテクノロジー」 7月31日（月曜日）12:30-14:00

最先端技術を用いてアクセシビリティの拡充に取り組む文化施設等の事例を通して、多世代や様々な領域を結ぶ情報保障の現在と未来について議論します。



中野 夏海

日本科学未来館 科学コミュニケーター



設楽 明寿

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科  
ろう・難聴者向けアクセシビリティに関する研究に取り組む



モデレーター

阿部 一直

東京工芸大学 教授

## ⑧ 「共創するとは何か～文化的実践を通して～」

7月31日（月曜日）14:30-16:00

地域の高齢者や様々な障害のある方と協働を重ねてきたアーティスト等が「共創」することの可能性を探り、共生社会のあり方を議論します。



西尾 美也

東京藝術大学 准教授



伊藤 亜紗

東京工業大学 教授  
美学者



モデレーター

森 司

アーツカウンシル東京  
事業調整課長

## トークセッションタイムスケジュール

	7月29日（土曜日）	7月30日（日曜日）	7月31日（月曜日）	
9:30				
10:00		10:00-11:00 映画上映 『手でふれてみる世界』（60分）	10:00-11:30 セッション⑥ 「デフリンピックに向けて」	
10:30				
11:00		11:15-12:45 セッション③ 「ふれることから出会う世界」		
11:30				
12:00				
12:30			12:30-14:00 セッション⑦ 「情報保障とテクノロジー」	
13:00		13:15-15:00 オープニング・主催者挨拶	13:30-15:00 セッション④ 「来館しやすい美術館」	
13:30		セッション① 「文化的『社会的処方』と共創の場」		14:30-16:00 セッション⑧ 「共創するとは何か ～文化的実践を通して～」
14:00				
14:30				
15:00				
15:30	15:30-17:00 セッション② 「ろう者による表現」	15:30-17:00 セッション⑤ 「劇場・ホールにおける共創的体験」		
16:00				
16:30				
17:00				

## 2 展示

多様な身体・知覚・コミュニケーション・文化に関わる様々な作品や取組を紹介します。  
デフリンピックに向けて、ろう者や聴覚障害のある方への理解も深めることができます。

### ① 身体と多様性と表現

#### 60数台の車椅子を用いた作品の展示

多様な知覚や身体感覚、異なる他者との共有やコミュニケーションについて問いを投げかける作品。  
属性や背景が異なる世界に触れることで、アクセシビリティとは何かを多角的に考える契機となります。



HIWADROME\_typeΔ  
2022

アーティスト：檜皮 一彦

大阪生まれ  
身体性をテーマにした映像作品やパフォーマンス、自身も使用する車椅子をインスタレーションする「HIWADROME」をファーストラインに、様々なラインを展開

### ② 共創する活動

#### 地域の女性《おばちゃん》たちと共同で立ち上げた西成発のファッションブランド《NISHINARI YOSHIO》の紹介

元タンス店を改装した店舗を会場内に再現し、創作物を展示します。活動の紹介を通し、共生社会の一つのあり方を提示します。



参考写真：  
NISHINARI YOSHIOの  
プロジェクトより

Photo by Keisuke Sakakura

アーティスト：西尾 美也

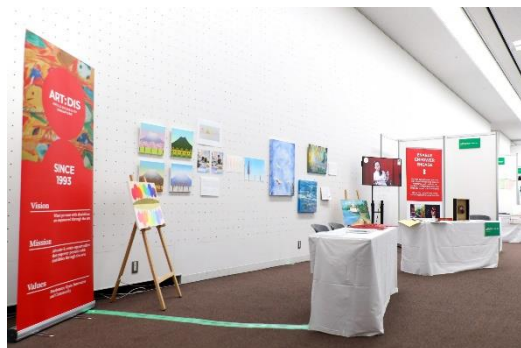
東京藝術大学 准教授  
装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目したプロジェクトを国内外で展開

### ③ ろう者と表現

#### 国内のろうアーティストによる作品展示

絵画、漫画、写真等の作品を通して、ろう者の知覚や世界観、コミュニケーションやろう教育について、理解を深めることができます。

企画協力：  
大杉 豊、管野 奈津美、西 雄也



昨年度の国際会議の様子

### ④ 情報保障とデバイス

#### QDレーザを体験した盲学校の高校生と写真家による作品の展示

芸術文化の鑑賞や体験をサポートする最先端のテクノロジーと、写真家による表現を掛け合わせ、今日の情報保障のあり方を考えます。

#### ※QDレーザの網膜投影

瞳孔を通して入射した微弱なレーザ光で、直接網膜に映像を描き出す新しい技術。弱視の人の「みえづらさ」を支援するものとして利用されている。



写真家：池田 晶紀

写真事務所「ゆかい」を設立し、活動。  
近年の展覧会は、2023年「池田晶紀写真展 写真でつながる街と街～大手町・神田～東京ピエンナーレはじまり展～」



### 3 レクチャー&ワークショップ

★要事前申込

【期間】 8月1日（火曜日）～6日（日曜日）

【会場】 東京都美術館 ロビー階 第4公募展示室

アクセシビリティの向上や共生社会の実現に向けて、今日の社会に必要な情報保障や多様な他者とのコミュニケーションの形をともに考え、体験する場を提供します。

「視覚身体言語とコミュニケーション」「やさしい日本語」「触察」「視覚障害と鑑賞プログラム」「車いすというメディウム」「ろう文化」の6つのセッションでレクチャーやワークショップを実施します。



昨年度の国際会議の様子

撮影：佐藤基  
Photo: Motoi Sato

### 4 パフォーマンス×ラボ

【期間】 8月1日（火曜日）～6日（日曜日） ※6日間連続プログラム

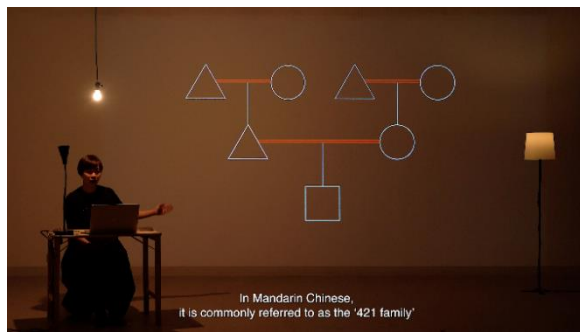
【会場】 東京都美術館 ロビー階 第4公募展示室

先進的な活動をするクリエイターのパフォーマンス作品に、障害のある方を交え、実験的に情報保障を加えていくラボ。

音声や文字による情報保障を加える「めとてラボ」とワークショップを行い、6日間かけてパフォーマンス作品に情報保障を加えていく様子を公開します。最終日には、その成果発表として、アクセシビリティを向上させたパフォーマンス作品を上演します。

#### ジョイス・ラムのレクチャー・パフォーマンス作品

《家族に関する考察のトリロジー／On Family》（2021-2022/2023年）の展示・上演



#### ジョイス・ラム

香港生まれ  
東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士  
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士  
ロンドン大学東洋アフリカ研究学院日本語・経済専攻卒業

#### 「めとてラボ」

誰もが「わたし」を起点にできる共創的な場づくりを目指し、幅広い視点からホーム（拠点）づくりを行うプロジェクト。視覚言語（日本の手話）の中で育まれる感覚や言語を起点とした表現や場を探求している。